

# 熊楠ワークス

KUMAGUSU WORKS

## 昭和天皇と熊楠

3月22日 参加者募集

### 田辺・白浜で「南方を訪ねて」

南方熊楠邸保存顕彰会（会長・脇中孝田辺市長）は三月二十二日（日）、熊楠ゆかりの地を歩く「第十四回南方を訪ねて」を開きます。今回は「昭和天皇と南方熊楠―行幸と進講」をテーマに、昭和四年六月一日、昭和天皇が紀州を行幸されたさいに熊楠が献上した動植物標本を採集した田辺湾周辺や、白浜・三段壁、ご座船が安置されている熊野三所神社などを訪問します。

日程は、田辺市青少年研修センター（田辺市役所裏）に午前十時三十分集合。講義のあと、大型バス二台で田辺市新庄町内之浦、三段壁（昼食）、熊野三所神社、南方熊楠記念館を訪ねます。講師は、顕彰会常任理事で南紀生物同好会事務局長の後藤伸さんと、同

じく常任理事で南方熊楠研究家の中瀬喜陽さん。

募集要項は次の通りです。

▽参加費・千五百円（昼食は各自持参）

▽申し込み・南方熊楠邸保存顕彰会事務局（〒646-0033 田辺市新屋敷町一番地、電話0739・22・5300番）

▽定員・百人

▽締め切り・定員になりしだい締め切ります

## 昭和天皇と 和歌山県の 生物研究

昭和前半までの天皇は《現人神》であった。憲法にも

発行所  
南方熊楠邸保存顕彰会  
和歌山県田辺市新屋敷町1  
田辺市教育委員会文化振興課内  
TEL0739(22)5300(代表)

## CONTENTS

257面  
カメメン・ブラッカーさん  
講演  
8面  
谷川健一さんの  
宮古島シンポに参加して  
9面  
普段着の南方熊楠⑥

10面  
神島を探る⑥  
後藤 伸氏  
11面  
熊楠ゆかりの地⑤  
中瀬喜陽氏

「天皇は神聖にしておかすべからず」とある。その《あらひとがみ》が「生物のご研究に紀州へ行幸された」とあつては、狂喜したのは南方熊楠だけでなく、地元和歌山県の生物研究に携わる人たち全員であつた。これは一同「ショックを受けたほど感銘した」との大事件であつたという。

それがきっかけとなつて、昭和四年に「紀州生物雑俎の会」（発行所・田辺町）が発

足し、それが昭和六年に「和歌山県博物学会」に発展し、昭和九年の「紀州生物学会」に引き継がれた。行幸記念の「県立生物博物館」の建設が計画され、準備に紆余曲折はあつたが、とにかく昭和十二年白浜の江津良（後日臨海実験所内に移転）に実現した。行幸時に展示するための多量の植物標本が作成されたが、もちろん南方熊楠の指導によるものであつた。

当時の田辺湾周辺、特に田辺市文里から内之浦、鳥ノ巢、

古賀浦を経て綱不知に至る複雑な地形の丘陵地や塩沼地は、貴重な植物の宝庫であつた。南方邸に保存されている

当地採集の熊楠植物標本を調査したところ、「近畿地方の保護上重要な植物」（レッド

データブック近畿）に三十種以上登録されていることが確認できた。戦後の経済発展と引き換えに、いかに塩沼地や入り江が消滅したかが分かる。

行幸の中心的存在だつた神島の森は、天然記念物指定後の三十年間に、森林の主要樹であつたタブノキが枯れたため、昭和初期の姿とは大きく変貌している。その上、近年の環境の悪化により森林が衰弱し、カワウの糞害が追い打ちをかけ、危機状態にある。

そのため、神島上陸厳禁の措置を取らざるを得ない状況になつた。いま、過去の神島を代行できる森は、田辺・白浜周辺では熊野三所神社の森しかない。この神社林の主要構成樹は、樹齢が百年を超える

タブノキ、オガタマノキ、ホルトノキなどの高木であつて、照葉樹林としての景観を保持している。この社叢（しやそう）は、神島と同様シイノキを含まない《タブノキ・ウラシマソウ群集》としての形態を今に伝えているため、和歌山県の天然記念物に指定されている。

京都大学の瀬戸臨海実験所は、日本における海洋性生物学研究所として世界的に知られた拠点である。ここには昭和天皇はじめ皇室とのつながりが特に深く、多くの皇族方が生物学の研究にご訪問されている。そのつど、番所の鼻沖の岩礁地帯や島島、塔島付近は《磯観察の場》になつてきた。また、熊楠が献上した《海蜘蛛》（ウシオグモと推察される）や、洞窟性海水性カメムシであるウミミズカメムシも、白浜三段壁の海岸から知られている。

（顕彰会常任理事・後藤伸）